

Keep Town Beautiful

全国まち美化連絡会議ニュースレター

VOL.17

第7回
まち美化
西から東から

拡大版

関東地方北部の
美化注目事例を訪ねて

私たち「全国まち美化連絡会議」は、美化活動を、自分たちのまちの清潔さ・美しさを自分たちで育てていく取り組みのことだと考えています。

『Keep Town Beautiful』では、各地の活動団体や自治体を直接取材し、そんな「まちづくりとしてのまち美化」を幅広く紹介していきたいと考えています。今号では、市民の行動力を活かしたしくみづくりが進んでいる、熊谷市と群馬県の動きをご報告します。

より親しめる荒川づくりをめざし、ネットワークを活かした河川美化を実践 —熊谷の環境を考える連絡協議会—

埼玉から東京へと流れる一級河川の荒川流域には、そこを活動フィールドとする多くの河川愛護団体があります。また、毎年秋には、流域団体のNPO「荒川クリーンエイド・フォーラム」による一斉清掃が行われています。

荒川中流域には、「熊谷の環境を考える連絡協議会（略称：熊環連）」という環境保全団体があり、荒川に対する関心と愛着が地域に広がるよう、河川管理者や他の市民団体と連携して意欲的な美化活動に取り組んでいます。

● 「荒川の恵みと熊谷を考える集い」の開催

クリーンエイド・フォーラムの活動にも位置づけられていますが、毎年秋、熊環連が中心になって行うイベントです。

もともと熊谷は、荒川から用水路をひいて農耕に利用し、その伏流水を飲み水や酒造づくりに活かすというように、荒川の恵みが人々の暮らしを支えてきたまちでした。にもかかわらず、最近はその河川敷に散乱ごみや不法投棄が目立つようになっています。

そこで「集い」では、市民に荒川に捨てられるごみの現状を知ってもらい、解決に向けた行動の輪を広げることを目的として、参加者によるクリーンアップ・ウォーキングをプログラムの中心に据えています（他に、スポーツ教室や伝承遊び、民話芝居の上演なども実施）。

昨年（平成13年度）は、市の中心部にある荒川大橋近くとやや下流に行った久下新川近くの2ヶ所を集合地に開催され、50以上の団体・1,400人あまりの市民・事業者が参加し、半日で約3.5tのごみが集められました。ただし、それまでに比べてごみが半減し、河川管理者への提言から実現した「車止めの設置」効果の現れといえるのでは、とのことでした。

「集い」の運営費用は100%熊環連が出資しています。行政などと関係のない任意団体なので金銭負担には限界がありますが、その一方、行政からのグッズ提供やチラシ用の印刷機使用便宜協力、地元企業からの資材提供、さらに各種団体を通じた当日参加呼びかけといった形で金銭面以外のさまざまな活動支援を受けており、それが大規模なクリーンアップにつながっているそうです。「お金がないから、互いに知恵を出し合い、助け合う。そして、人と人のつながりが強くなっていく」。ご案内いただいた運営委員の依田悦代さんは、そうおっしゃっていました。



「荒川の恵みと熊谷を考える集い」のチラシ



運営委員の依田悦代さん